



Pag-Asa

日比パガサの会



ストリートチルドレンを学校へ！

パガサ (Pag-Asa) とは「希望」明日への希望を子どもたちへ！！

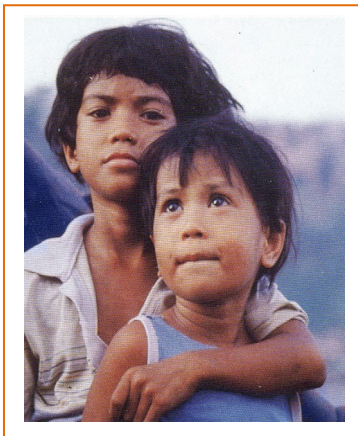
1989年創立以来、

フィリピンのストリートチルドレンや貧しい家庭の子どもたちの支援をしている民間援助団体です。

支援実績 (PDF)

2020年度視察レポート (PDF)

2019年度視察レポート (PDF)



皆様、

お変わりなくお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。

フィリピンでは今年も新型コロナウイルスの影響で断続的に移動制限が続
き、新学期は通常より遅れて9月から始まりました。授業は引き続きイン
ターネット経由で実施されることが多いとのことです。現状講義を受けるには
パソコンが必要と考えられますので、エルダ財団のソーシャルワーカーが適切
な機種を選定して大学に通う支援生に支給し、大変喜んでもらいました。生
徒達は、住宅事情やインターネットの接続環境など依然困難な状況におりま
す。兄弟の1人が授業を受けている間、同じ部屋にいる他の兄弟は静かに待
っていなければなりません。子供たちが暮らす地域では、必ずしもいつもイ
ンターネット経由で十分な画質・音質で授業に参加できるとは限りません。
そんな中でも、なんとか頑張っ欲しい、との私共の気持ちは届いたように
思います。

今年は例年実施している2月の視察を行うことができませんでしたが、代
わりに大学生とアジア婦人友好会の支援生に近況を伝えてもらいました。それ
ぞれ、厳しい状況の中でも頑張っており、志を高く持って何としても卒業し
たい、との力強い言葉を届けてくれた生徒もおりました。ただ、残念なが
ら、体調を崩してしまった、リモートでの授業にどうしてもついていくこ
とができない、卒業を控えての企業でのインターンが例年のように進められ
ない、などの問題をかかえている生徒もいます。エルダ財団でも、対面での活
動が制限されるなかで、地域の婦人会の手を借りたり、先輩奨学生が下級生
の補習をするようアレンジしたり、などの努力を続けているとのことです。

新型コロナによる自粛の日々は、私たちの生活にも大きな影を落としており
ます。そんな中、困難に対応していこうとする奨学生の姿、できることを着
実にを行うことにより奨学生達への援助を前に進めていこうとするエルダの
スタッフの姿には本当に励まされます。皆様からお寄せいただいた基金によ
り、継続して生徒達を援助することができていることに、改めて感謝申し上
げます。

2021年度の支援数は、A基金が105名、B基金が259名、C基金が7名、アジ
ア婦人友好会基金5名（支援総数376名）となります。

2021年12月

日比パガサの会 代表 東島雅子

1989年－2021年 支援総数

28,909人

小学生 25,459人
中高校生 3,242人
大学生 206人
卒業生 2人

支援総額

167,405,591円

1人/年間費用

通学に必要な経費
(制服・かばん・文具など)
小学生 約6,000円
高校生 約7,000円

奨学金

職業訓練校 約60,000円
大学生 約40,000円

問い合わせ先: office@pagasanokai.org